

支援2 事業概要等説明資料

2024年11月20日

学長 日野 伸一

説明主担当：電子情報システム工学専攻長 江藤 信一

説明補助：学長補佐 小田 まり子・河野 央

福岡県一小さな工業大学

- 収容定員1,355名の小規模工学系大学

- 福岡県久留米市

「筑後地方唯一の工業大学」

- 学部・学科: 工学部 5学科

機械システム工学科、交通機械工学科、建築・設備工学科、
情報ネットワーク工学科、教育創造工学科

- 大学院: 工学研究科 修士課程 3専攻

電子情報システム工学専攻

エネルギーシステム工学専攻、モビリティシステム工学専攻



支援2 事業概要

- 改組内容:研究科等の設置・増員
- 情報系組織名:<修士>工学研究科電子情報システム工学専攻
- 情報系組織の入学定員:<修士>【R7増員】改組前5名 → 改組後20名
- 所在地:福岡県久留米市

事業概要図

AI・データ分析・データサイエンス × 工学 による高度情報専門人材の育成

人生100年時代の地域社会課題の発見・解決、ビジネスや業務課題のDX化で挑み、地域の人々が多様な幸せ(well-being)を享受する社会を実現

AIやデータ分析(DA)の応用技術の修得

実務家教員による授業科目やAI・DAの応用で
地域・企業のデータから課題を発見し、解決に挑む

地域課題解決型 高度AI教育プログラム

PBL

企業・自治体等と連携したアクティブラーニング

地域のDX化、社会人リカレント教育を支援
できる地域社会融合型の教育・研究を実践

課題の発見から解決、表現、実装までのデザイン思考を修得できる体系的教育カリキュラム



独自のAI修了証の発行

産学連携による社会人大学院制度

オープンバッジ・国際的通用性の向上

継続的な高度情報 専門人材の輩出

- 学部生の大学院科目等履修制度
- 本学工学部のAI修了証を持つ学生や、高い難易度の情報技術系資格保持者を対象にした新たな入試制度の検討および大学院スカラシップの導入
- 地域社会人リカレント教育支援・長期履修制度・夜間休日の講義対応体制強化による社会人大学院生への対応

地域と連携した研究活動 活性化のための環境設備

- 大学院生専用の研究室や大学院におけるPBL教育を円滑に進めるための実空間設備の充実
- 現実世界では試すことのできない実験・シミュレーション・可視化を可能にするメタバース・ラボ教育・教材の充実
- 修士論文研究指導に携わる教員の処遇・研究費等を考慮することによる大学院担当教員数の増加・更なる充実

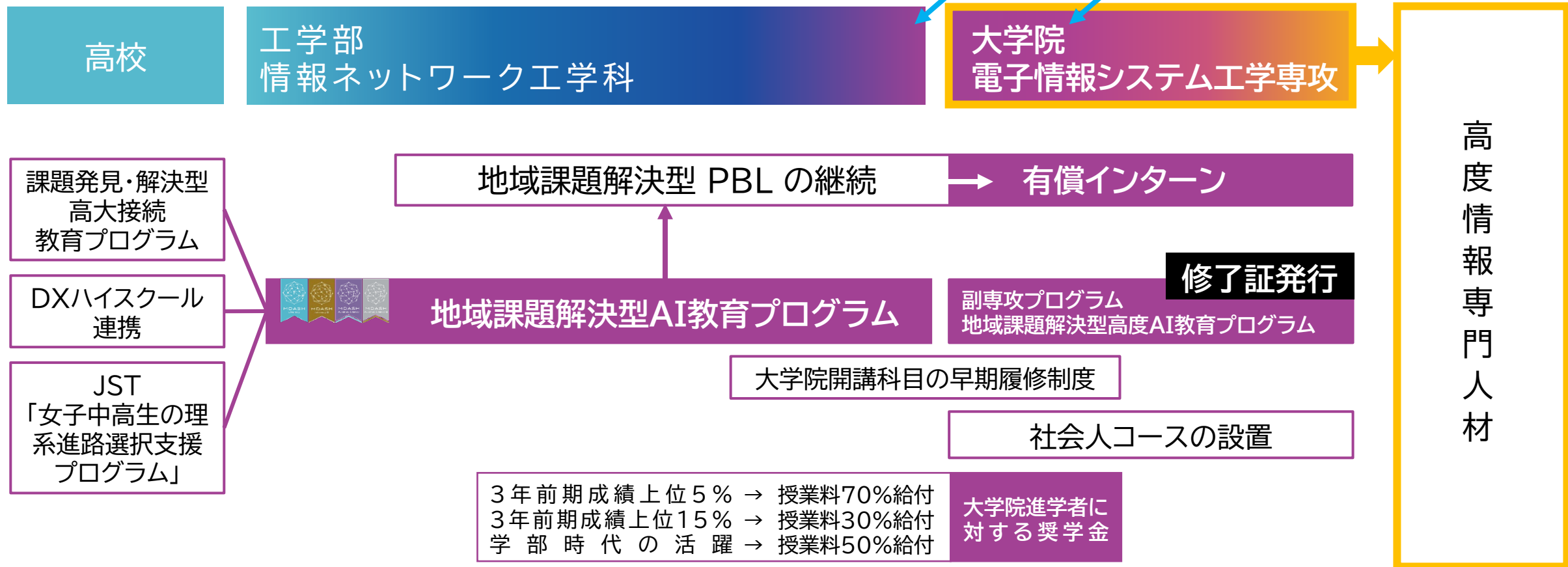
産業界と連携した 有償・中長期インターンシップ

- 地域課題解決型PBLを通じて企業・自治体との連携体制を構築
- 久留米ICT組合や久留米工業大学地域連携推進協議会、九州経済産業局との連携により、地域密着の中長期の有償インターンシップ制度を創出
- 有償インターンシップ制度による大学院生の経済的支援と地域企業のDX化等の両立

支援2をエンジンとした人材育成

9年一貫教育

大学・高専機能強化支援事業(支援1)・(支援2) 選定



副専攻プログラム「地域課題解決型高度AI教育プログラム」

高度情報専門人材育成のコアとなる副専攻プログラム

- データサイエンス・AIを、自身の専門に取り入れ、よりの確に地域課題の解決等に活用するために必要となる高度な知識および能力(様々な角度から数理・データサイエンス・AIを生かす視点)を修得することを目的とする。

科目名	単位数	履修単位数
地域課題解決型高度AI教育プログラム特別講義	2単位 必修	2単位
データサイエンス特論	2単位 選択	2単位 以上
統計分析特論	2単位 選択	
ビッグデータ応用特論	2単位 選択	
		合計 4単位 以上



令和5年度「地域課題解決型AI教育プログラム」(実践レベル)および「地域課題解決型高度AI教育プログラム」修了証授与式

- 2024年3月18日に令和5年度「地域課題解決型高度AI教育プログラム」の修了者として、本専攻よりM2: 3名、M1: 5名に対して、修了証を授与した。
- 令和6年度においても、M1: 11名 **全員が履修中**である。

学生による研究発表の増加

■ 進学を予定している学部生の学会発表も増加中

■ 学生の学会発表数(学会補助申請に基づく)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度(現時点)
学部	情報ネットワーク工学科	1	4	7
大学院	電子情報システム工学専攻	5	4	9

■ 電子情報通信学会、計測自動制御学会、電気学会等

学生確保の状況

過去5年間の入学定員充足率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (11/20現在)	令和8年度 以降
入学定員	5	5	5	5	10	20	20
入学者数	1	6	5	5	11	15(見込み)	
入学定員 充足率	20%	120%	100%	100%	110%	75%(見込み)	
進学率	1.4%	7.9%	6.8%	4.7%	12.4%	16.5%(見込み)	
関連取組				- 支援2 選定 - PBL4年目 - 大学院科目等履修制度	- 高性能PC導入 - 授業料値下げ	- 新奨学金制度適用 - 新棟竣工/大学院生室設置	支援1: 基礎となる学科の定員110名

入学者確保のための実施体制

■ 主なターゲット

- 大学内部進学で入学定員充足を目指す想定
- 情報ネットワーク工学科(支援1 対象学科) + 教育・機械系学科

■ 体制

- クラス担任、特に卒業研究配属先の指導教員が一人ひとりの学生に応じた丁寧な説明、案内により大学院進学を勧めることが中心



■ 社会人学生については、社会人コースを設置(R7年度より開始)

- オンデマンド科目の充実
- 演習科目は土曜日等に受講可能、研究指導は休日や平日夕方でも対応
- 最大4年間の長期履修制度

■ 大学院入学者選抜実施要項にて案内し、連携企業にも説明

入学者確保のための実施体制

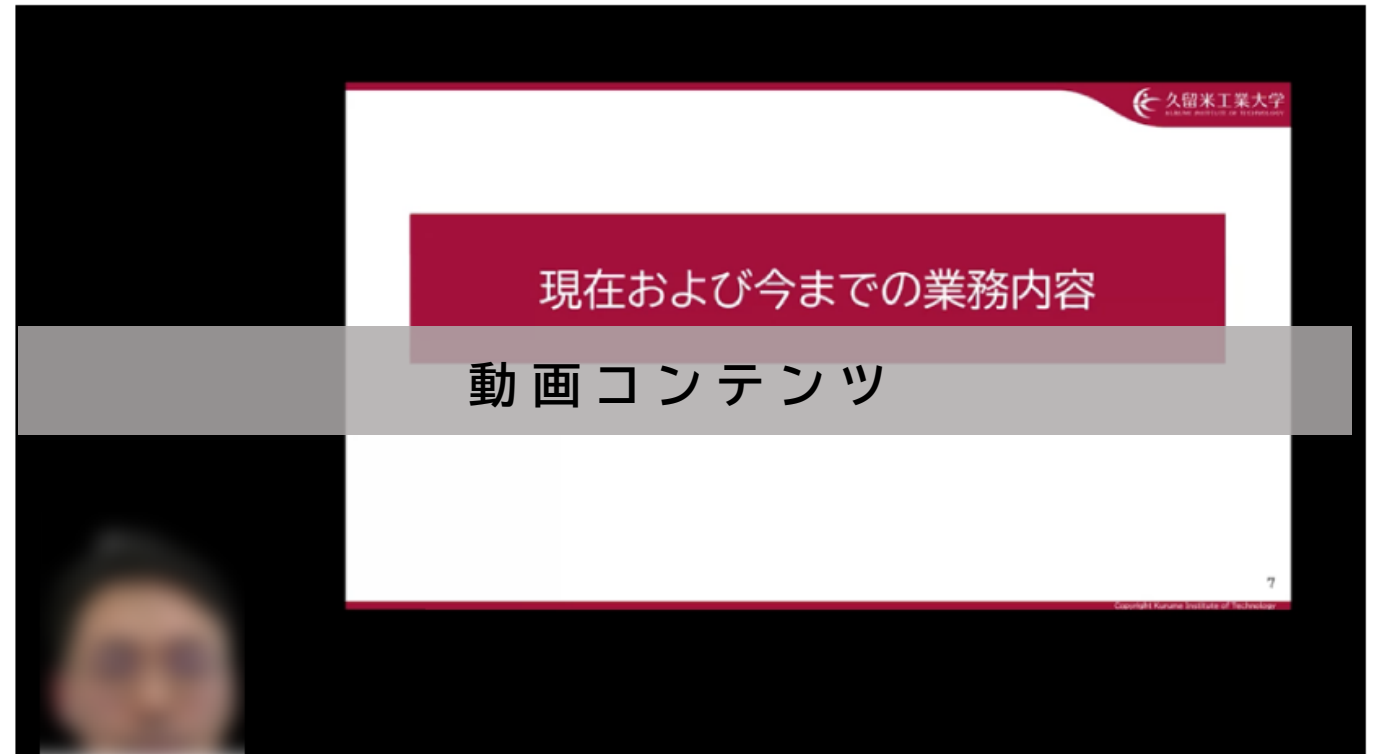
情報ネットワーク工学科の学年進行における大学院進学PR

説明実施時期	PR活動の内容	対象人数
1年次/4月	入学ガイダンスにおいて全学科の新入生を対象に、学長からの「大学院の紹介」と各専攻長から専攻の紹介および研究活動等を詳しく紹介し、 入学時点から大学院の存在をアピール し、大学院進学に興味を持ってもらうように努力している。	90名
2年次/後期	就業力育成セミナーⅠ（情報ネットワーク工学科2年生後期必修科目）において、自身の将来設計について考えるグループワークの中で、やりたいことを実現する手段のひとつとして 大学院進学のメリットについて紹介 している。	90名
3年次/前期	就業力実践演習（情報ネットワーク工学科3年生前期必修科目）の中で、自身のキャリア設計に対して具体的に考えるワークをおこなっている。その授業の中で、情報ネットワーク工学科の教員より 大学院進学や将来のメリット、経済的な支援等について説明 している。	94名 （編入学生含む）
3年次/後期	就業力育成セミナーⅡ（情報ネットワーク工学科3年生後期必修科目）では、卒業研究の仮配属をおこない、少人数ゼミ形式で講義演習等を実施し、その中で 卒業研究の指導教員より大学院進学への意識涵養 を図っている。また各研究室の大学院生との交流を図ることで、研究活動やリーダーシップなどを体験することで、大学院進学を身近に感じるよう計らっている。	94名 （編入学生含む）
3年次/11月	進路面談会（情報ネットワーク工学科3年生参加必須）において、3年生学生および 保護者にも大学院の情報を提供 し、さらに進学した大学院生の進路や研究体験も共有し、大学院進学を真剣に考える機会を与えている。	94名 （編入学生含む）
4年次/年間	卒業研究の取り組みや就職活動の状況に応じて、卒業研究担当の教員が大学院進学のPRを行っている。大学院推薦試験は多様な入試区分を設けており、7月初旬・10月初旬・2月中旬・2月下旬に実施される。このように受験の機会を多数設けることにより 就職から進学への進路変更にも年間を通して対応可能 としている。	94名 （編入学生含む）

入学者確保のための実施体制

■ 大学院進学PRの例(動画)

- 大学院進学者や修士卒
社会人の経験談を動画
アーカイブ化
- 進路面談会やセミナー
で活用



入学者確保のための実施体制

保護者向け大学院PR

- 保護者向け大学案内リーフット「久工大だより【Fan】」の配布により、大学院の学費や奨学金などのファイナンシャルプラン等も含め「進学のススめ」を行っている。
- 多数の保護者が参加する地区別保護者懇談会、3年次進路面談会においても大学院について紹介している。
- 参加者数の実績

	地区別保護者懇談会	3年次進路面談会
令和5(2023)年度	145名	60名
令和6(2024)年度	239名	33名

入学者確保のための実施体制

■ 本学独自の経済的支援

- 従来から設けている本学独自のGPAを基準とした成績上位者への奨学金
 - GPA評価上位5%→年間授業料7割給付、GPA評価上位15%→年間授業料3割給付
- 新たな奨学金制度として、GPAではなく学部時代の業績(AI教育プログラムの上位修了証取得や学会発表等)で評価する特別奨学生制度を新設
 - 研究発表やAI教育プログラム修了証グレード、大学院入試における評価等で年間授業料5割給付
- 企業・自治体との連携による地域課題解決型PBL「高度AIコーオプ実践Ⅰ～Ⅳ」を基にした有償インターンシップ制度により、研究テーマとして企業の課題に取り組みなからアルバイト代を得られる仕組みを新設
- さらに、令和6年度からは授業料の引き下げを行い、近隣の理工系大学院と比較しても少ない方となり、学費負担の減少を図った

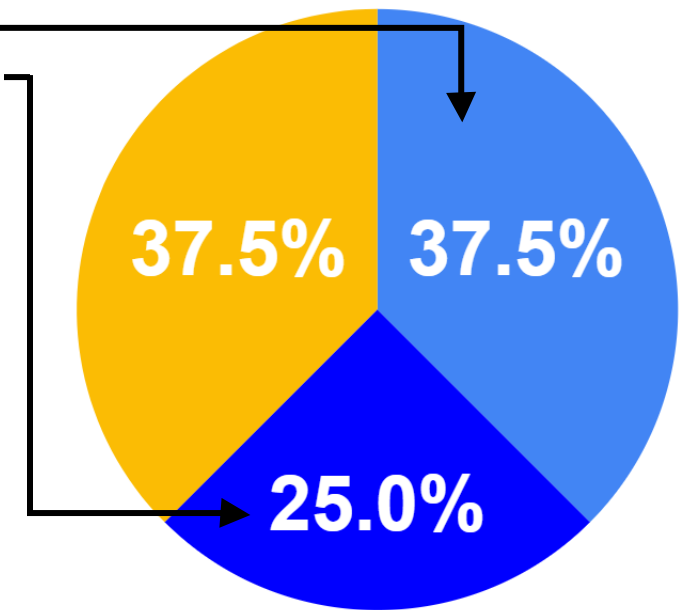
令和7年度入学対象者についての追跡調査

特別奨学生対象であっても就職を選択した学生について

- 対象者 8名
- アンケート調査した結果、奨学生制度の一定の効果が期待できる。
- 自由記述回答から、学生の半数が研究テーマに悩んでいることが判明した。
- そこで、新任教員を採用し、研究分野の多様化を図ることで、成績上位層の研究意欲向上を図り、学生確保につなげる。

Q: 特別奨学生の対象となったことが就職または進学を決定することに対する影響

- やや迷う要因となった
- 大いに迷う要因となった
- ほとんど影響はなかった



教員確保の状況

教員確保の状況

申請時の実施計画	人数	進捗
教授相当	3名	△ 1名採用 ※実務経験アリ
特任助教	1名	○ 1名採用済み
非常勤講師(実務家教員)	10名程度	○ 10名選定済み・調整中

- 支援2選定通知後、学内調整を経て令和6年2月に教授・准教授・講師(計3名)および特任助教(1名)の公募開始
 - 特任助教に対して1名応募あり。書類選考・面接選考を経て、採用内定
- 令和6年3月末 教授・准教授・講師(計3名)の再公募スタート
 - 2名応募あり。書類選考1名通過。面接選考を経て、1名※採用内定
- 令和6年10月 教授・准教授・講師(計2名)の再々公募スタート

教員確保の状況

学外の教員公募について

- 実務経験についての基準は明確には無い
- ただし、実務経験を有する者については、その経験に応じて大学院での教育経験や研究に置き換えて評価する対応をとっている
- 着任時期についても応相談

学内の教員養成について

- 研究指導教員の維持・拡充を組織的に図っている
 - M丸合(修士研究指導教員)については、学内規程を設け、5年に1回教員資格審査を行っている
 - 科研費申請のためのFDや添削・助言支援を行い、外部研究費獲得と研究の活性化を図る
 - 研究活性化のために学長裁量経費による研究支援を行っている(次頁)

新規採用教員への研究費処遇

着任年度の研究費支給について

- 着任時には、教育研究設備準備金として15万円支給
- 学長裁量経費による研究費をスタートアップ支援として100万円給付

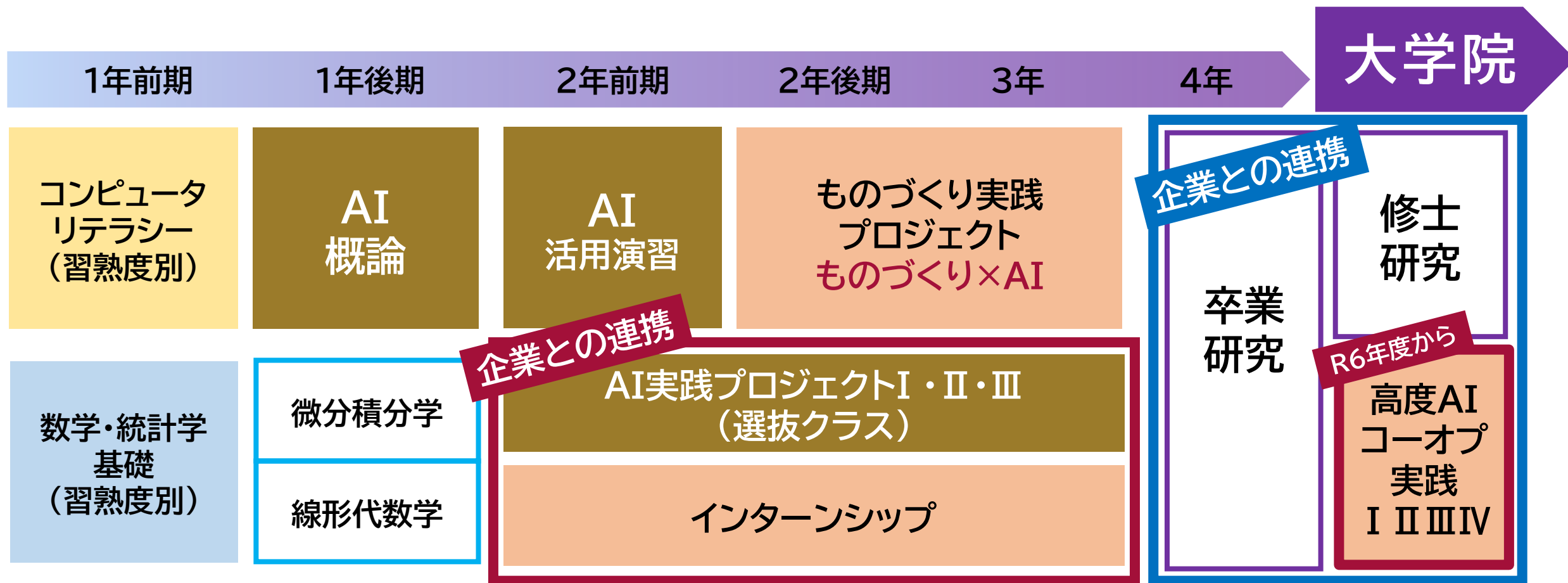
区分			金額	採択枠	執行期間	申請方法	審査方法等
応募型	個人型	S	100万	1件	最大3年	申請書提出 5/27(月)締切	書類選考、プレゼンテーション（必要に応じて）に基づき、研究評価委員会において審査。 注）採択者は、年度ごとの成果報告書の提出及び科研費への申請、また研究終了後の査読付きの大学紀要等への投稿を義務とする。なお、科研費に採択された場合は、学長裁量経費の執行は停止する。 ※新任教員については、スタートアップ支援として優先する。 ※「学科横断型」は、分野横断的な共同研究であり、協定に基づく他大学との分野横断的な研究も含む。 ※「学科横断型」に採用された場合は、報告会にて研究成果について報告すること。 ※「産業界等との共同研究支援型」は、他大学との共同研究も含める。共同研究の実施に関しては、企画会議で審議の上、協定・契約等を締結すること。 ※「地域課題解決型」は、地域の企業や団体・人と連携し、研究活動や学生の教育活動に資するもので、スタートアップ支援を必要とするもの（外部資金未獲得）。その成果を報告会または大学紀要にて報告すること。
		A	50万	4件			
		AIに関する研究・教育支援（注1）	50万	2件			
	・学科横断型		50万	2件			
	・産業界等との共同研究支援型						
・地域課題解決型							
地域連携	共同研究		30万	1件	最大3年	申請書提出	本件は、地域連携推進協議会会員企業と本学教員による共同研究事業への支援。 企業からの申し出により、地域連携センターコーディネーターが、本学教員の研究とマッチング等の調整を行い、該当教員から本件へ申請する。 採択された場合は、年度末に成果報告書を提出する。
先着	論文投稿料支援		10万	7件		・掲載決定通知 ・費用が分かる書類等	論文の掲載に係る投稿料、掲載料、オープンアクセス料、別刷代を対象とする。 （対象外：外国語の翻訳、校正に係る経費） ※共著論文の場合：ファーストオーサー又はコレスポンデンスオーサーの場合に限り、補助対象とする。 ※いわゆる「粗悪学術誌」「ハゲタカジャーナル」と呼ばれるジャーナルへの投稿でないかについては、申請者自身が、大きな国立大学の図書館HPなどを使って事前に十分確認していること。 申請回数：当該年度1件の申請（先着順で決定）
対象者	科研費申請再チャレンジ支援		10万	対象者全員	1年	・A評価を示す書類	前年度の申請でA評価又はB評価で不採択となった申請者に対し、今年度の科研費申請を前提として、科研費申請・採択に向けた経費支援として支給。
			5万	対象者全員	1年	・B評価を示す書類	
	科研費申請書の査読者への研究活性化協力費		1万	対象者全員			科研費申請書の査読者（科研費の採択者の中で、学長が指名した方に限る）への研究活性化協力費
全員	基礎研究費		5万	全員	1年		教員及び技術職員全員に、一律5万円を支給。 （ただし、学会への参加費、旅費等に使用することとする。）

外部機関との連携状況

- 産学官連携実績
- 有償インターンシップ(高度AIコーオプ実践)の実績

参考：令和6年度AI教育プログラムのカリキュラムフロー

産業界との協働による地域創生AI・データサイエンス人材の育成



有償インターンシップについて

- 大学院の新規科目として【高度AIコーオプ実践 I ～IV】を開講
- この科目は、久留米市内の中小企業が行う新製品・新技術の開発に連携し、地域企業の課題発見、課題解決に取り組みながら、AI・数理・データサイエンスの最先端技術について実践的に学ぶ
- 企業との連携の対価として謝金を支払う制度として令和6年度よりスタート

「コーオプ制度」とは

大学におけるコーオプ制度は、学生が学業と実務経験を組み合わせて学ぶ制度のことで、通常、学生が一定期間、企業や組織で実務経験を積むことを意味する。

高度AIコーオプ実践(有償インターン)

※企業名および研究テーマ名は黒塗り

組織名称		具体的な研究内容
産	株式会社 [黒塗り] (実施中)	コーオプ研究テーマ「AI画像診断における [黒塗り] の開発」(令和3年度から令和6年度PBL、令和6年久留米市ものづくり支援事業採択)
産	株式会社 [黒塗り] (実施中)	コーオプ研究テーマ「 [黒塗り] 画像分析AI、及び [黒塗り] アプリケーションの開発」(令和4年度から令和6年度PBL)
産	株式会社 [黒塗り] (実施中)	研究テーマ「AIを活用した [黒塗り] の開発」 令和6年より新規
産	株式会社 [黒塗り] (R7年度から予定)	研究テーマ「 [黒塗り] におけるAI活用」 令和6年度PBL
産	株式会社 [黒塗り] (R7年度から予定)	研究テーマ「 [黒塗り] チャットボットの改良」 令和5年度から令和6年度PBL
官	[黒塗り] 市役所 [黒塗り] (R7年度から予定)	研究テーマ「AI [黒塗り] 」

地域課題解決型高度AI教育プログラム特別講義

分野・テーマ	組織名称・連携者
AI×ゲーム	株式会社リンクトブレイン
AI×Well-being	佐賀大学名誉教授(元宇宙航空研究開発機構 JAXA)
AI×ロボット・農業	アイナックシステム株式会社
AI×倫理・哲学	久留米工業大学名誉教授
AI×経営	株式会社DX経営研究所 ・ ITコーディネータ
AI×ビジネス	株式会社テクノソリューション・中小企業診断士
AI×エコシステム	株式会社サワライズ フューテックセンター
AI×スポーツ	独立行政法人日本スポーツ振興センター・ 国立スポーツ科学センター

受講者数実績：令和5年度 9名、令和6年度 11名

初等中等教育 教育連携(令和5・6年度)

連携分野		組織名称	具体的な連携内容
9年一貫教育	DXハイスクール	純真高等学校(私立) 唐津東高等学校(公立・中高一貫) 祐誠高等学校(グループ校)	DXハイスクール連携における情報Ⅱ分野の教育連携・探究学習の連携(令和6年度～)
	課題発見・解決型高大接続教育プログラム	高等学校14校・参加者103名	工学・AIをテーマとした探究学習プログラムを提供し大学院進学という選択肢を示す(令和6年度～)
	女子中高生理系進路選択支援プログラム	JST、佐賀大学他高等教育機関、久留米市教育委員会、地場企業等	女子中高生を対象としたAIワークショップおよび合同イベント・女子中学生及び保護者対象の企業見学会(令和6年度～)
初等教育支援		広川町教育委員会	小学生対象AIプログラミング教室の実施(令和3年度～)
文部科学省 令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業」		佐賀県教育委員会、佐賀県立伊万里実業高等学校コンソーシアム	『文理融合型教育による「いまりん6次化」実践プログラム』コンソーシアム委員としての講演・体験授業(令和5年度～)
教育研究会別活動部会研修会(教員対象)		佐賀県高等学校教育研究会	佐賀県の高校教員を対象にした「地域課題解決型AI教育プログラム」の紹介とAI・DX人材育成の重要性についての講演(令和5年度)
高等学校ミドルリーダー研修会(教員対象)		久留米市教育委員会	久留米市立高校教員(ミドルリーダー)を対象にした講演・AIプログラミング体験(令和6年度)

連携分野	組織名称	具体的な連携内容
PBLへの学外学生参加	聖マリア学院大学(令和6年度～)	地域課題解決型PBLへの参加(看護学生10名)
AI・データサイエンス	九州大谷短期大学(令和6年度～)	「AI・データサイエンス概論」の講義・演習を担当
AI・データサイエンス	聖マリア学院大学(令和5年度～)	「AIプログラミング」の集中講義・演習を担当
AI・データサイエンス	八女筑後看護専門学校(令和5年～)	「医療と工学」の集中講義の実施。AIプログラミングの演習を担当
FD・講演(AI教育)	九州工業大学(令和5年)	「久留米工業大学におけるAI教育プログラム」 2023.7.17 (九州工業大学戸畑校)
FD・講演(AI教育)	西日本工業大学(令和6年)	「地域ニーズに応える人材の育成」
FD・講演(AI教育)	摂南大学(令和4年)	「地域課題解決型AI教育プログラム」
PBL成果発表会	久留米工業大学で開催	PBL成果報告会に他大学の多数の教職員が参加

高等教育機関教育連携・支援(令和5・6年度)

連携分野	イベント組織名称	具体的な連携内容
依頼講演 (AI教育)	「ICT+教育最前線2023(福岡)」 「ICT+教育最前線2023(東京)」	「久留米工業大学の地域課題解決型AI教育プログラム」 2023.7.21(福岡) 2023.8.04(東京) 対象:大学教職員
	私立大学情報教育協会 教育イノベーション大会 「AI時代の教育と人材育成を考える」	テーマ「メタバース・ラボでの課題解決PBLの取組」2023.9.6 (オンライン)対象:大学教職員
	経済産業省九州経済産業局 主催 DXフォーラム in 久留米	テーマ「数理・データサイエンス・AI教育・研究の推進」 2024.2.22 (久留米工業大学)
	「私立大学キャンパスシステム研究会」	テーマ:久留米工業大学「メタバース・ラボ」の活用と将来構想 2024.3.15 対象:大学教職員 (大阪・富士通研究所)
	数理・データサイエンス・AI教育強化コンソーシアム 「データサイエンスPBLケース・シンポジウム」	テーマ「地域課題解決型PBLの実践」 2024.11.22 (北海道大学)
	公益社団法人私立大学情報教育協会 「アクティブ・ラーニング分野連携対話集会」	テーマ「地域課題解決型AI教育プログラムにおける産学連携 PBLの効果」(オンライン) 2024.12.21(土)
講演(AI教育)	久留米工業大学地域連携推進協議会	テーマ:「産学連携による課題解決型AI教育の実践とAI応用研究の推進」2024.7.28 対象:地域連携推進協議会会員
	公益社団法人私立大学情報教育協会 「ICT利用による教育改善研究発表会」	テーマ「地域課題解決型AI教育プログラムにおける産学連携 PBLの効果」2024.8.23 ※2024年度私立大学情報教育協会賞受賞(東京)

その他の連携

■ 九州経済産業局

- 産学連携DX推進フォーラムin久留米を開催し、久留米地域を中心とした企業と教育機関の連携につながる場づくり



産学連携DX推進フォーラムin久留米

参加費 無料

日時 令和 6 年 2 月 22 日 (木) 13:00~17:30

場所 久留米工業大学 100号館
第一部：131教室／第二部：1階 Restaurant西
(福岡県久留米市上津町2228-66)

対象 データサイエンス・AIに関心がある学生の方
DX・産学官連携に関心がある企業、自治体、学校関係者の方

最終更新日：2024年02月20日

イベント概要

日時	2024年2月22日 (木曜日) 13時00分～17時30分 (12時30分開場)
開催場所	- 第一部：久留米工業大学 100号館 131教室 - 第二部：久留米工業大学 100号館 1階 Restaurant西 (福岡県久留米市上津町2228-66) ■会場へのアクセス② ■主会場バスマップ② ※大学内に無料の駐車場有
参加費	無料
対象	データサイエンス・AIに関心がある学生の方 DX・産学官連携に関心がある企業、自治体、学校関係者の方

■ 久留米ICT組合

- 有償コーオプ制度への協賛・参加やPBLでの連携、AI勉強会の開催、オープンデータ活用 (Code for Kurume)等



久留米情報システム株式会社	久留米・鳥栖広域情報株式会社	コーワコンピュータ株式会社	システムラボラトリ株式会社
TEL 0942(37)2151	TEL 0942(37)6363	TEL 0942(30)2180	TEL 0942(37)6100
WEB SITE	WEB SITE	WEB SITE	WEB SITE
大成ジオテック株式会社	株式会社ちくぎん地域経済研究所	剣ソフトウェア株式会社	株式会社テクノ・カルチャー・システム
TEL 0942(34)5622	TEL 0942(46)5081	TEL 0942(43)1960	TEL 0942(38)7611
WEB SITE	WEB SITE	WEB SITE	WEB SITE

- 久留米市ものづくり支援事業(有償インターンシップとの連携)
- 久留米リサーチパーク
- 福岡県工業技術センター

異分野・異年齢・学生と社会人の連携によるPBL

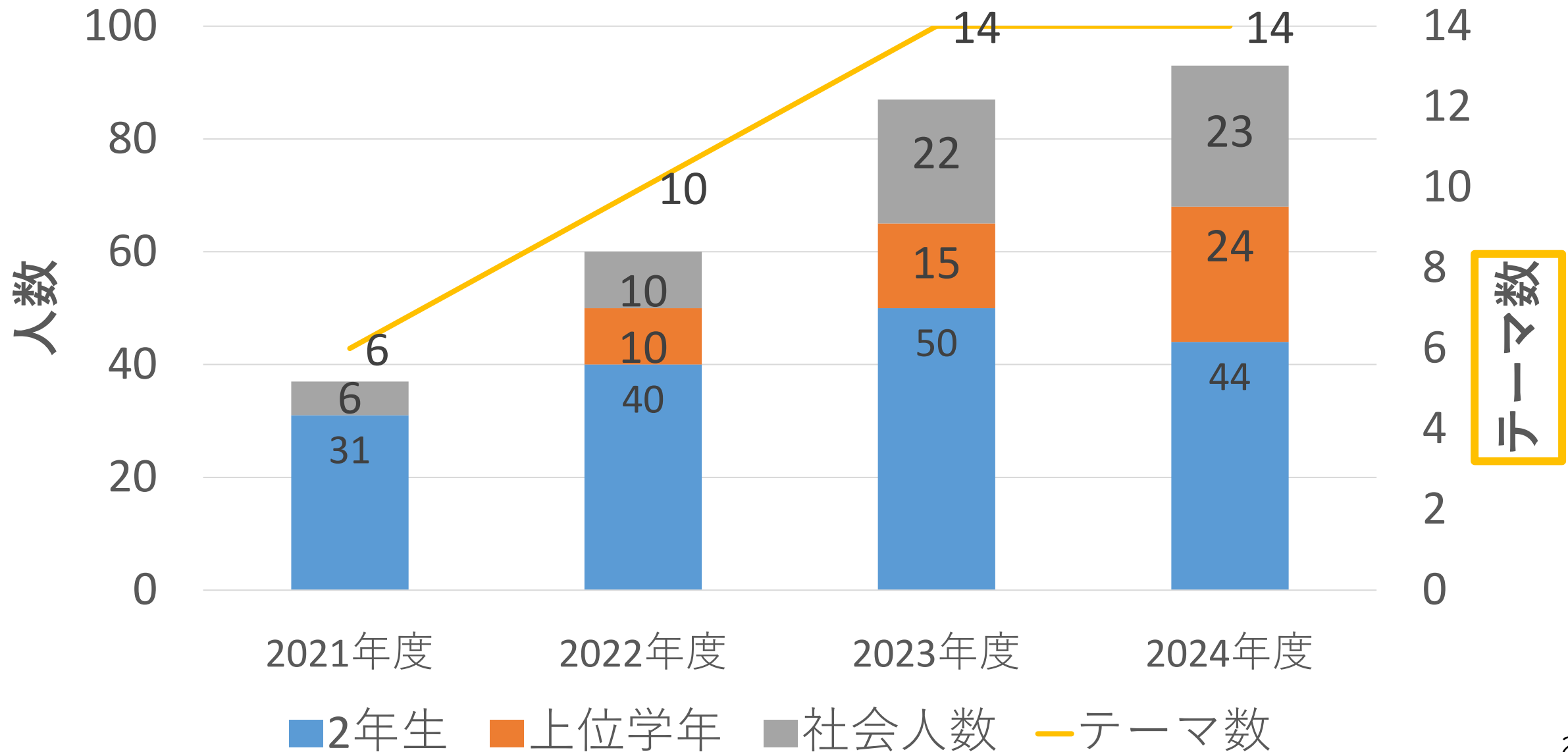
幅広い分野への応用
14テーマ

		課題解決内容・利用技術
課題1	経営	AIによるアーク溶接人材育成のためのスキル評価
課題2	建設	建設現場における作業員の再同定による危険回避
課題3	建設	画像処理法を使用したコンクリート材の損傷評価法の開発
課題4	経営	ChatGPTを用いた顧客対応チャットボットの改良
課題5	経営	在庫管理業務における AI 活用
課題6	教育	小学生のための広川工業団地企業紹介アプリの開発
課題7	教育	特別支援学校の作業学習を支援するAI レジスターの開発
課題8	福祉	Helpyの開発 ～小さなhelpを大きなHappyへ～
課題9	健康	ChatGPTを使ったカウンセリングbot
課題10	医療	AI解析を用いたストーマ患者の装具選択モデルの開発
課題11	農業	AI予測による農作物の出荷販売管理システムの開発
課題12	農業	階層ベイズを用いた八女茶の味への影響の分析
課題13	農業	パッケージセンターにおけるコンテナ内イチゴ自動集計システム
課題14	農業	AI を用いたキュウリ種子カウンターの開発

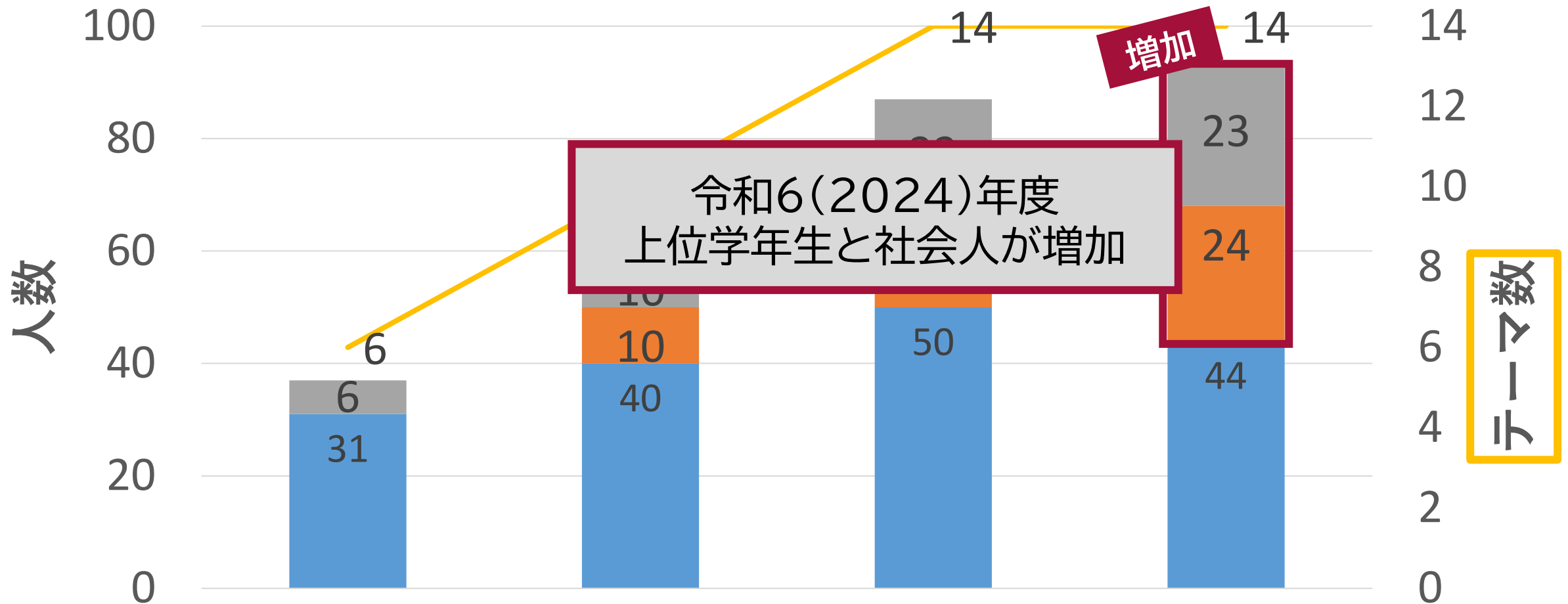
参加者 計106名

- ・学生69名
- ・教員14名
- ・地域社会人 23名

PBL参加人数とテーマ数の推移



PBL参加人数とテーマ数の推移



令和6(2024)年度:メタバースや遠隔会議システムを活用
社会人の参加回数自体が増加 → 産学連携での学びが定着

予算執行状況等

委託・外注費(令和5年度)

大学院生による将来的なメタバース開発や研究応用のための教材

申請時

【その他】		10,000		10,000	
委託・外注費		10,000		10,000	
・メタバース教材開発費		10,000		10,000	④メタバース教材開発のため
<令和5年度>		合計	10,000	10,000	

実績 9,790千円

動画コンテンツ

シミュレーション開発のケーススタディ



メタバース開発のための
オンデマンド動画教材

参考：久留米工業大学のメタバーズ・ラボ

メタバーズ上でのPBL



メタバーズを使ったPBLの様子

備品費

R6年11月時点での状況

＜令和6年度＞	経費区分	助成金申請額 (①)	自己負担額 (②)	助成対象経費 (①+②)	計画との関係等	備考
	[物品費]	18,000		18,000		
	備品費	18,000		18,000		
	・高性能ノートPC (40台)	18,000		18,000	③大学院生研究用情報機器	
	・					
	・					
	・					
	・					

- 大学院 教育研究用 高性能ノートPC
- 40台購入



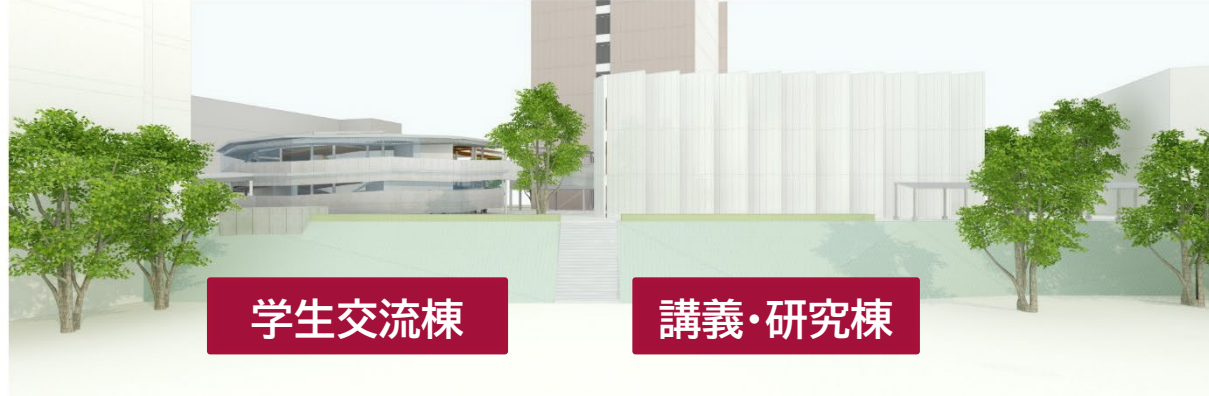
施設・設備の整備状況等

次年度の予定

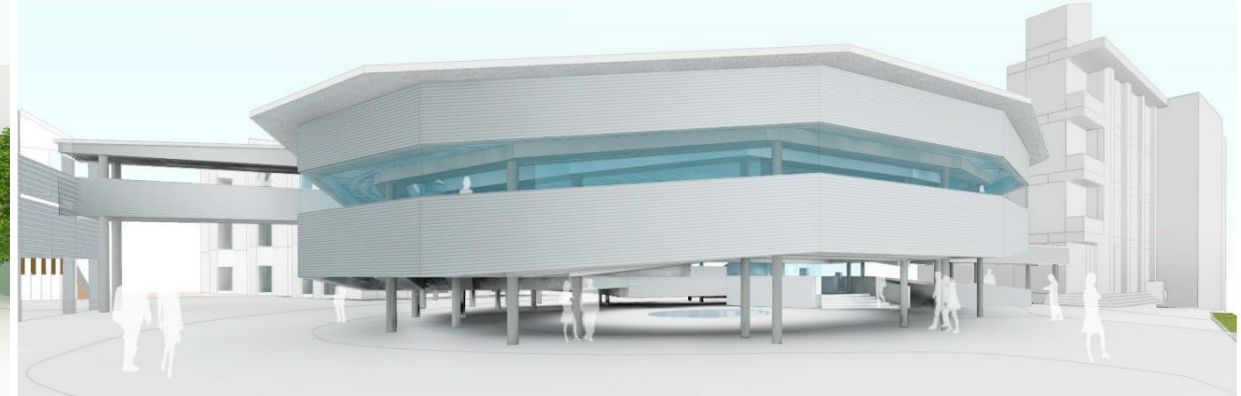
<令和7年度>	経費区分	助成金申請額 (①)	自己負担額 (②)	助成対象経費 (①+②)	計画との関係等	備考
【物品費】		200,000		200,000		
施設設備整備費・建物取得費		200,000		200,000		
・電子情報システム工学専攻大学院生室整備					③大学院生研究室の整備	
オープンディスカッション空間構築						
壁一面ホワイトボード・ディスカッションスペース		35,300		35,300		
高輝度レーザープロジェクター×4・電動回転カメラ×4		14,000		14,000		
ワイヤレスマイク・天井スピーカー設備		7,000		7,000		
タッチパネル式コントローラー機器設備		5,000		5,000		
ソロワーク×チームワーク空間構築						
防音ブース×6		14,000		14,000		
チームワークスペース什器類		9,000		9,000		
特殊形状机×6						
椅子×30、長机×2、椅子×10						
空間設計&構築		8,000		8,000		
・新棟AI応用研究所整備					③AI教育プログラム実施場所の整備	
展示スペース						
デジタルサイネージ・ロボット (TEMIVER3) ×3		16,000		16,000		
ミーティングルーム						
6面液晶マルチディスプレイ (55inch) ×3		36,000		36,000		
電動回転カメラ・天井マイク/スピーカー・ワゴン設置		4,700		4,700		
タッチパネル式コントローラー機器設備		6,000		6,000		
ミーティングルーム 什器類		6,000		6,000		
大会議室特殊机 (音響システム連携) ×1						
大会議室椅子×10						
学生スペース						
壁面ホワイトボード・ディスプレイ・什器類		24,000		24,000		
学生用スペース長机×6						
学生用スペース椅子×20						
研究室						
研究室什器類・来客用什器類		8,000		8,000		
研究室長机×3、研究室椅子×3						
研究室来客用長机×3、						
研究室来客用椅子×12、研究室本棚×3						
空間設計&構築		7,000		7,000		
備品費						
・						
・						
・						
・						
・						
・						

- R7年3月竣工の新棟3階に、電子情報システム工学専攻の**大学院生室を整備**
- PBLやコーオプ、副専攻プログラムを推進する**AI応用研究所の整備**

新棟竣工(令和7年3月)



全体外観



チャンパー棟_外観



外構_水盤

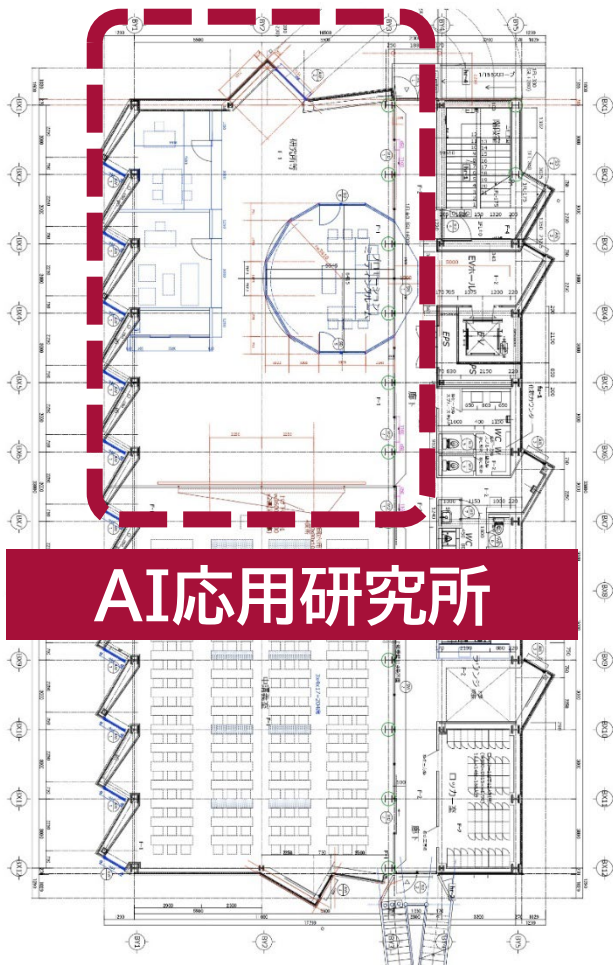


チャンパー棟_内観

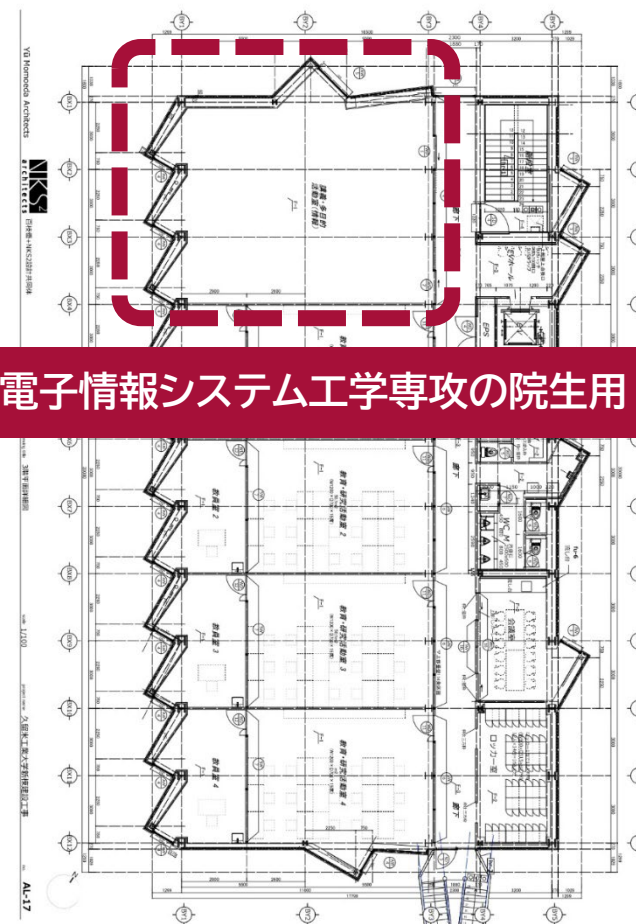
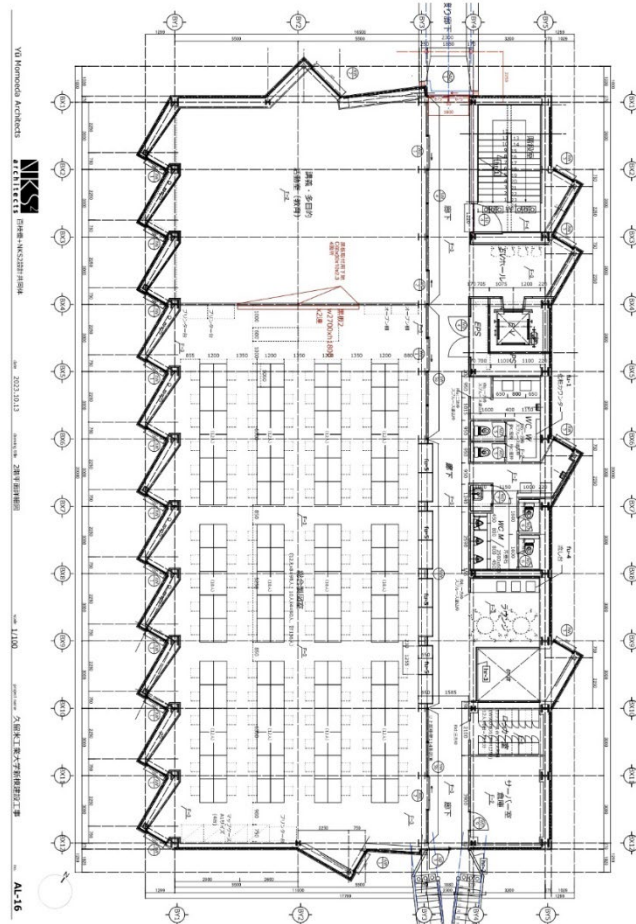
特徴的な**螺旋構造**で多様な交流を促す

グループワークホール、図書館、ブックカフェ等を設置

新棟竣工(令和7年3月)



AI応用研究所



電子情報システム工学専攻の院生用

新棟3階 電子情報システム工学専攻大学院生スペース

オープン・ディスカッション空間



ソロワーク×チームワーク空間



大学院生同士の学び、個々の研究活動など、自由な研究空間を実現

■ 新棟1階 AI応用研究所

Web会議・ミーティングルーム



オープン・ディスカッションスペース



- ・オフライン・オンライン会議の連携を重視した産学官交流の「ハブ」
- ・フリーアドレスや壁面スクリーンなど多様なディスカッションスペース

- 事業推進の体制は整いつつあり、教員確保が当面の課題
 - 施設・設備の整備は次年度開始時期には完了の見込み
 - 外部組織との連携は、申請時よりも拡充し、R6年度開始の有償コーオプ制度等、実績・成果が現れている
- 学生確保については、徐々に定員充足を達成する見通し
 - 令和6年度は前年比2.2倍の増
 - 令和7年度は前年比1.36倍の増、R5年比 3.0倍の増
- 筑後地域唯一の理工系大学院として、地方公共団体や地域の産業界と密に連携しながら、地域における産業・雇用の創出や継続的な高度専門人材育成という重要な役割を果たしていく

